

# 中国留学生と日本人学生の 映像コンテンツ接触にかかわる比較研究

～日本のメディア環境変化がもたらす情報行動の影響～

FANG Xin

現代社会の特徴のひとつは、人々の生活が、かつてないほど複雑なコミュニケーション環境の中で営まれていることである。メディア・コミュニケーションとは「メディアを使ったコミュニケーション」のことである。

本研究では、現代社会においてインターネットが急速なスピードで発展している社会状況を前提としており、19 世紀末以来、電話、映画、ラジオ、テレビといった既存メディアが展開してきた直線的な考え方でなく、複雑、多様かつ重層的なコミュニケーションのあり方に立脚している。

現代社会において、テレビの使用率が低下傾向になり、またその役割が希薄化しているとされる。他方、番組内容の単一性やインターネットのコンテンツ送信にかかわる情報処理のスピードや便利さなども追求されている。

一方、生活リズムが速い現代人は素早くコンテンツ情報を手に入れることを望んでいると言えるだろう。テレビはそれでも娯楽や情報の主要な供給源で、人間の知恵を集めて日々作られている。人間の貴重な記憶装置として存在していると考えられる。もしこのままテレビの機能が退化すれば、人間社会にとってそれは損失ではないかとも考えられる。

今日のグローバル化された社会では、インターネットが、外国人の日常生活において不可欠な情報インフラであり、メディアチャンネルの一つともなっている。インターネットを含めたメディア環境全体の中において、テレビがどのような位置を占めているのか、深めた考察を試みた。

本研究では、インターネット空間で広がりを見せつつある映像コンテンツも視野に入れながら、その手掛かりを探るのが、この研究の目的の一部ともなっている。また、インターネットを含めたメディア環境全体の中において、テレビがどのような位置を占めているのか、深めた考察を行った。

激変する日本のメディア環境の中で、既存メディアとしてのテレビメディアを通じた番組放送と独立した動画コンテンツ伝送を可能とする、インターネットメディアとの間で、日中の若者の間には、どのような接触行動の違いがあるのか、またその情報コンテンツの受け取り方、つまり受容に関する状況にはどのような特徴があるのかを研究した。

日本という異文化に身を置いている中国人留学生と同世代の日本人学生を合わせて16名(中日女子学生8名;中日男子学生8名)を対象として、映像コンテンツ接触にかかわる情報行動に、どのような違いがあるのか、比較研究を行うために、聞き取り調査を実施した。

現代社会では、テレビ視聴とインターネットの「ながら行動」、つまり両者の同時利用をもっと普及させることか、これからの社会で想定されている。インターネットとテレビメディアの関連を将来に向けて考える時、グローバル化された社会の中で、国内外の人々が、どのような関心を持って、メディアコンテンツにアクセスするかについての調査が重要なのである。

調査を実施した期間は、平成28年12月である。対象は、中日16名(中日の女子学生8名;中日の男子学生8名)に個別インタビューを実施した。インタビュー内容は、①調査対象の国籍、性別、年齢、背景など基本情報について、②テレビ所有の有無、そして③インターネットに接続した映像コンテンツへの接触内容を大きなグループとした調査結果を示した。これらについては、いくつかの小項目に分けて、表やグラフなどを提示し、より明確に記述する。続いて、自由回答にかかわる聞き取り内容として④テレビとインターネットの同時利用や関連利用について、⑤若者のテレビ離れについて、⑥テレビ番組視聴に望まれる環境について、そして⑦のテレビ視聴がインターネット環境と融合される中、どのような要因が加われば、コンテンツ視聴を促進されるかについて取り上げた。分析はKHコーダーを使い、主な頻出語を抽出し、共起ネットワーク分析により図表化している。

これらの分析を通じて、日中でメディアに関心を持つ学生について、テレビとインターネットの現状および未来の予測にかかわる知見を提示した。その上で、「若者のテレビ離れ」や、既存メディアとしてのテレビが新しいメディアとしてのインターネットと、どのようにすれば共存共栄できるかについて手がかりを得ようと試みた。最後に、テレビ番組や映像コンテンツが、メディア利用者にとって、特に若者の間に、どのように位置付けられれば、利用が促進されるかについて分析する。テレビとインターネットの融合は時代性の検証作業ともオーバーアップすることを特に念頭に置いている。